

経済学研究科(地域・経済政策専攻)の三つのポリシー

【 修士(経済学) 】

<p>大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p>	<p>研究科・教育部(専攻)の教育研究上の目的</p>
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>本研究科は、経済学・経営学・法学という社会科学の主要な専門分野において総合的・学際的な教育・研究を行っている経済学部を母体として、より高度で現代的な教育・研究体制を備えることにより、地域の社会人に対して激変する現代経済社会の課題に対応できるような専門的能力・知識を修得するための再教育を行うと共に、大学卒業生及び外国人留学生に対して、高度の専門的能力と豊かな知識を身につけた人材を養成することを目的とする。 地域・経済政策専攻においては、経済学や地域政策・公共政策などの分野について、公務員・公的セクターの職員等の社会人再教育も含め、高度な専門知識や分析力を有する人材を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 地域・経済政策専攻では当該専攻の授業科目を履修して、基準となる単位数を修得し、かつ、研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士(経済学)の学位を授与する。本研究科で学位を取得した者は、下記の能力を持つ。</p>	<p>【教育課程編成方針】 地域・経済政策専攻では、修了認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた4つの能力を身に付けさせるため、経済学を中心に、地域に関連した経営・法学分野も含めた体系的な学修が可能となるよう教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 専門的な知識とともに、ディスカッション能力やプレゼンテーション能力など社会人として必要なコミュニケーション能力を獲得させ、社会に貢献できる力を醸成するため担当教員による研究指導を実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 地域・経済政策専攻では、以下の人材を求める。 1. 経済、経営、あるいは法律に強い関心を持ち、さらにそれに関する高度な専門知識や実践的応用能力を身につけ、地域社会や教育に役立ちたいと考える人 2. 学んだことを生かし、現在の地域社会が直面する課題を理論的かつ実証的に究明・解決すること強く希望する人 具体的には1. 地方公共団体における政策担当者として活躍したいと考える人 2. 日本・アジア諸国の民間企業において指導的役割を果たしたいと考える人</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般入試 一般入試では、「志願理由書」と入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」と問題意識に沿った「論文」の提出、及び「口述試験」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。</p> <p>推薦入試 推薦入試では、入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」とこれに関連する「研究レポート」の提出、及び「口述試験」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。</p> <p>指定校推薦入試 指定校推薦入試では、「志願理由書」と入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」の提出、及び「口述試験」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 地域・経済政策に関する基礎的知識と関連諸分野に係る幅広い知識を学際的に修得し、独力で問題の所在を把握する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 地域・経済政策に関する基本的な論点を関連諸分野と関連づけて理解し、説明できる。</p>	<p>【学修内容】 地域・経済政策に関する学際的知識を身に付けさせるため、経済・法学科目の基礎を再確認する。</p> <p>【学修方法】 講義形式の授業によって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 幅広い知識を獲得するために必要な基礎学力と、学ぼうとする意欲</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 地域・経済政策に関連する専門知識とより専門的な分析手法を修得する。</p> <p>【到達指標】 地域・経済政策に関する専門書・論文を読んで独力で理解し、それらに登場する諸問題を説明できる。</p>	<p>【学修内容】 応用を中心とした理論系科目、制度・歴史を視点とする科目、経済データを統計学的に分析する科目、地域や特定の問題に焦点を当てた科目及び法学、政治学など幅広い視点から諸領域で蓄積された知識を体系的に学ぶ。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業によって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専門的学識を獲得するために必要な基礎的学力と論理的・数理的思考能力や英語能力、あるいは入学後にこれらを身に付けようとする意欲</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 高い倫理観と社会的良識をもって研究を遂行する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究者倫理・行動規範に則って学術論文を作成できる。</p>	<p>【学修内容】 研究者が一連の研究活動(課題設定、調査設計、データ解析、文献・資料の引用、成果発表など)を遂行する上で遵守すべき研究倫理を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業担当教員及び修士論文の指導教員が個別に指導するとともに、富山大学研究者倫理・行動規範に基づき、教育・研究指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 修士論文が富山大学研究者倫理・行動規範に則って作成されているかを審査する。</p>	<p>【求める資質・能力】 倫理的に妥当で社会に受容される研究を遂行する上で必要となる誠実さと公正さ</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 地域・経済政策に関する専門的知識を踏まえ、新奇性のある専門的議論を展開する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 地域・経済政策に関する新奇性のある学術論文を作成できる。また社会の一員として、専門分野において果たすことができる役割を認識して行動し、責任の伴うリーダーシップを発揮して社会貢献をすることができる。</p>	<p>【学修内容】 基礎から応用までの理論系の科目、制度や歴史を視点とする科目、経済データを統計学的に分析する科目、地域や特定の問題に焦点を当てた科目の学修を通じて、多様な視点から経済社会が抱える問題を学ぶ。 修士論文の執筆の完成を通じた研究活動によって、問題発見力・解決能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業によって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 国内外において社会が抱える多様な問題を認識し、その解決策を学ぼうとする積極的な意欲</p>